

〔筆のすさび上〕早春一夜水野氏の夜宴にかかるに、鳴肉を饗せらる。其味至て美なり、一座おののおの新鮮なるを感賞して、かの小倉の宵捕など、いふたぐひならんと各いふ。主人曰、例年の冬、故郷加州金澤より饋り來す。當年は舊臘遅く發せし故、十六日ぶりにて則今日到著せしなり。總じて鳴は寒半過る時は、雄鳥は肉瘦なり、雌鳥は肉少しも瘦ざるなり。因て當年は雌鳥を登し、殊に收藏の法よくて、觜の内及び兩翼弁に苞苴の内までも大なる山薺菜をつめてこしたり、故に味減せずと云へり。

〔食物和歌本草〕二鳴カモ

鳴はひへ中をおぎなひ氣力ます食をけしつゝむしころす也。鳴はたゞこまがさいやし小便をつうじこそすれすいしゆにもよし。

〔食物和歌本草〕四黒鳴。

黒鳴は冷にて十種の水病の腫ひかざるにつねにもちゆる。黒鳴は五淋に用ゆ、温熱の赤白痢にもきどく成けり。

〔食物和歌本草〕六綠頸アラビタキ

あをくびは甘く冷也。寒熱の虛風や水腫小便をやる。あをくびは金瘡産後に用るな血もうきめまひ吐逆せしむる。

白鳴。

白鳴は冷なり腫物瘡に吉熱毒水腫虛勞にも吉。白鳴は風濕を去身のうちもおもくあがらず貴にはれる治す。

〔古老口實傳〕一鳴諸小鳥飼事禁之

一齋宮院内禁制如式文○中 鳴子不供進之貞觀以後  
禁制也